



史料探しの研究旅： ソウル・LA・神戸までの旅程

東京大学

大学院総合文化研究科

地域文化研究専攻

博士課程2年 崔 勝燁（チェ・スンヨプ）

I. 自己紹介：
あなたは、何者ですか？



I - i . 私は、このようなものです

・ 自己紹介

- 崔 勝燁（チェ・スンヨプ）博士課程2年
- 冷戦史（20世紀）を勉強して、歴史家を目指している学生
- 韓国ソウル出身、韓国陸軍で兵役を終えて、韓国で学部卒
その後、日本に来て（2021年から）、活躍中！



I - ii . 私は、こんな仕事をするものです

• 研究関心

➤冷戦史とは、なんですか？

アメリカとソビエト連邦が争った国際関係の歴史です

(1945年～1991年まで)

➤なぜ、こんなことを勉強しているのですか？

私たちが直面している国際問題の原因を探して、解決策を探したいから！

今日の国際問題、ひいては、トランプ大統領さえ、冷戦史を理解しないと、なぜあのような物騒な人が大統領になれるのか、答えられない



I - ii . 私は、こんな仕事をするものです

- 歴史研究は、なぜ、海外に渡航する必要があるのですか？

- 歴史研究のやり方

- 犯罪事件を調査する刑事(Detective)のように、証拠を集めて、ある事件の犯人・共犯・動機・背景を明らかにする

- 歴史研究の証拠はなに？

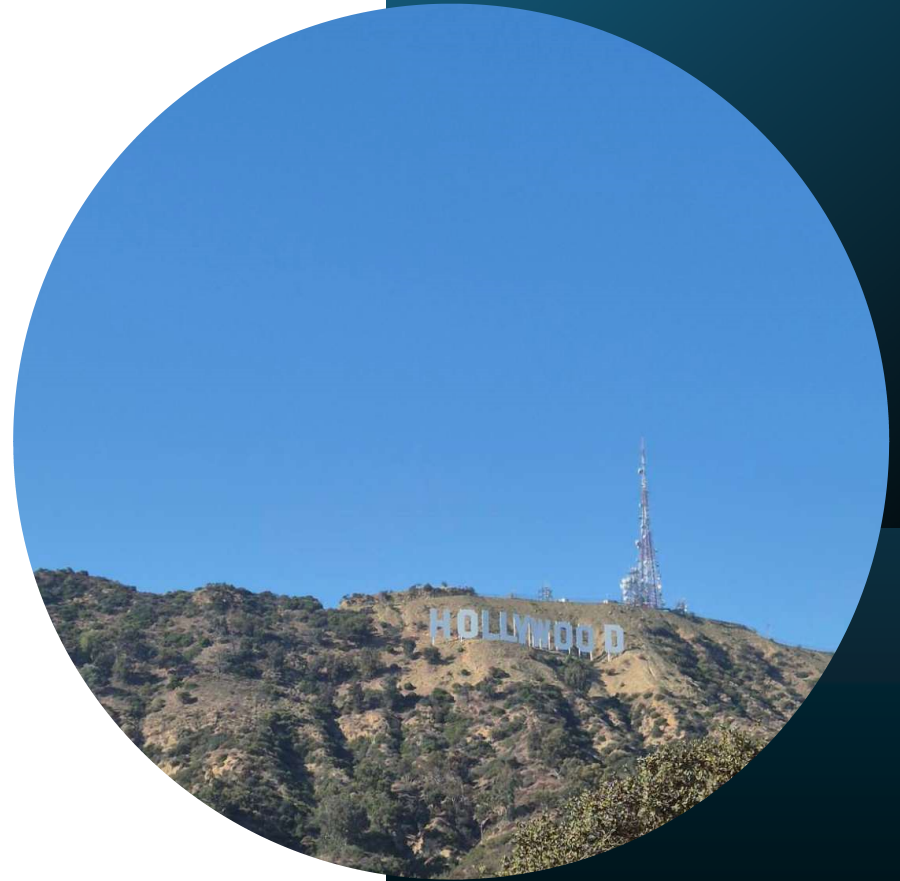
- 世界各地にある「図書館・史料館」に所蔵されている「政府関係文書・民間所蔵文書（＝史料）」

- ⇒ 根拠となる「史料」を探し出すためには、日本のみならず、米国や韓国といった国々に訪問する必要がある！



ワシントンD.C.にある「米議会図書館」

Ⅱ． 8月の現地調査： ソウル・L.A.



Ⅱ- i . ソウルへの渡航と調査

- ・ 金大中（キム・デジュン）大統領図書館

- 所在地：ソウル市麻布区（ホンデの周辺）

- 目的：韓国の民主化をめぐる日本・米国の市民団体が展開した「民主化運動」に関する史料の調査

- なぜ、ここなのか

韓国が民主化された以後、日本・米国における市民団体の史料が、この図書館に寄贈され、特に日本で確認できない文献が多い

- 訪問期間：四日間（8月4日～7日）



Ⅱ - ii . L.A.への渡航と調査

- レーガン大統領図書館（Ronald Reagan Presidential Library）

- 所在地：カリフォルニア州シミバレー（Simi Valley）

- 目的：アメリカ外交（1981～84年）に関するホワイトハウスの文献を確かめ、レーガン政権の東アジア政策に関する史料を調査

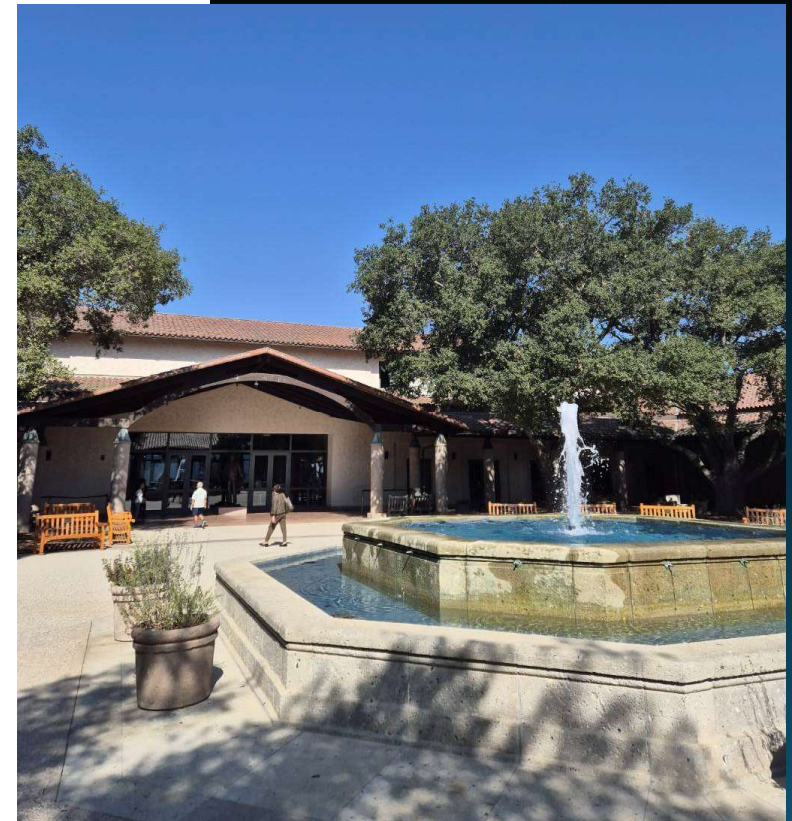
- なぜ、ここなのか

- レーガン大統領をはじめ、ホワイトハウスの人物らが史料を寄贈

- 最近公開された史料は、デジタル化 X

- ⇒ 日本の研究者の間では、未だに検討されていない

- 訪問期間：8月11日～15日（五日間）



Ⅱ - ii . L.A.への渡航と調査

・ どうやって入るの？

- レーガン大統領図書館の正門の隣にある「研究者用」入口。
- チャイムを鳴らして、警備員に訪問目的と予約有無を聞かれる
- 左上の監視カメラで確認して門を開けてくれる
- 中に入っても保安検査をして、荷物はロッカーに入れる
- いよいよ、入れる！



Ⅲ. 10月の研究報告： 神戸



Ⅲ- i . 学会での研究報告とは？

・ 学会とは？

- ある分野を研究している学者らがつくった団体
- 研究動向や新たな研究手法といった知識・経験を共有
- 定期的に、それを論文集でまとめて「学会誌」を出版する
⇒ 研究者らのコミュニティ

・ なぜ、研究報告をしますか？

- 今までの実績を対外的に公開する目的
- 研究結果を紹介することで、その分野の新しい地平を開く
⇒ 社会全体の過去・現在・未来に対する理解を深め、
政府の政策決定が合理的になるように、手伝う



Ⅲ- ii . 日本国際政治学会 (JAIR)

・ 歴史

- 設立年度：1956年
- 会員人数：2,000人以上
- 第二次世界大戦以後、日本の国際政治学をけん引してきた学会

・ 活動

- 研究分野：国際政治・国際政治史・地域研究、国際的問題への研究
- 活動内容：学際的研究の推進、発表及び普及
- 定例活動：学術雑誌の発行や研究大会の開催

⇒ 国際政治の分野における学術研究交流の促進に寄与



Ⅲ- iii. 研究大会（神戸）での報告

- 2025年度研究大会（神戸大会）

- 何を報告しましたか？

- 修論の補強版として、学術誌に投稿したい内容
- タイトル「レーガン政権の東アジア政策への再検討」

- 感想を聞かせください

- 発表は、緊張、とにかく、緊張！
- 先輩・同期・後輩などからの応援
- 先生の方々からの評価と指摘

⇒ 研究者入門の「儀礼」だからこそ、自分の成長を感じた



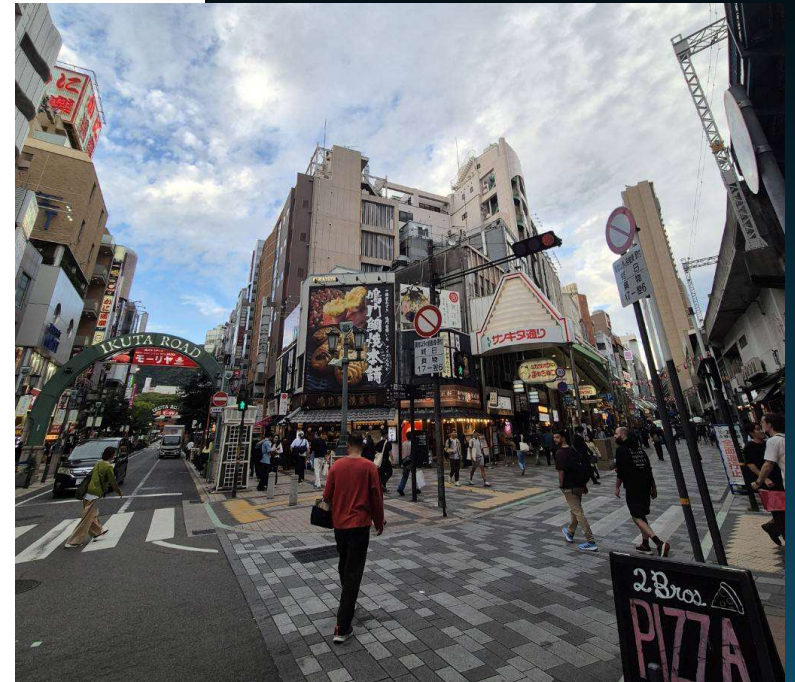
Ⅲ-iv. 今からは、なにしますか？

- **投稿に向けて、最後のラッシュ**

- 先生たちの指摘を反映して、修正に入る！
- 早ければ12月、遅ければ1月には、投稿に挑戦
- そこから、審査（査読）に入ります（汗）

- **新たな論文作成への挑戦**

- 投稿が無事に終わったら、また新しい論文の執筆に入りたい！
- 来年からは、博士論文の作成に向けて第一歩、踏み出す



ご清聴ありがとうございました

